

自閉症・情緒障害学級における「算数科」の指導(2)

実施したアセスメント等と結果

【アセスメント】

「算数科学習評価シート」

【アセスメントの結果(学級の児童の実態)】

- (1) 計算はできるが計算の意味の理解が難しい。
- (2) 1/4を4/1と書いてしまうなど、分数の仕組みや表記の仕方の理解が難しい。
- (3) 抽象的な数直線や図形に「〇分の〇」を書き込むことが難しい。

指導目標の設定

◆同分母分数の加法と減法ができることを知り、計算方法が理解できる。



単元名:「分数の計算のしかたを考えよう」

障害特性に応じた指導の工夫

- ◆目盛りで〇分の〇が分かりやすいので、ℓマスを活用しました。
- ◆通常の学級では、単元の流れが、『小数⇒三角形⇒分数』となるが、学習内容の関連性と分かりやすさを重視し『小数⇒分数⇒三角形』にしました。
- ◆発展課題は個別の対応とし、基本的な計算の仕方の習得に重点を置きました。

(1) 全体指導(20分)

※教科書の挿絵などを電子黒板で見ながら考える
 ・分数の足し算の計算の仕方を以下の順番で考えさせる。

- ①立式をする。
- ②具体物<リットルマス>の図を操作させて、その分数が表している意味を理解する。
- ③分数の足し算の答えを出す。
- ④①と②の答えを見て、答えの決まりを見つける。

(2) 個別の取組(15分)

- ・自分の机で「分数の計算」の問題をしましょう。

(3) 全体指導(10分)

- ・学習の振り返り



大型の画面を使って、教員が本時の授業の流れを説明

(分数の計算のしかたを考えよう) 第3学年

指導内容・方法の工夫

教科書で取り扱っているℓマスは、全体を「1」として捉えやすく、「〇分の〇」をイメージしやすいことが分かりました。

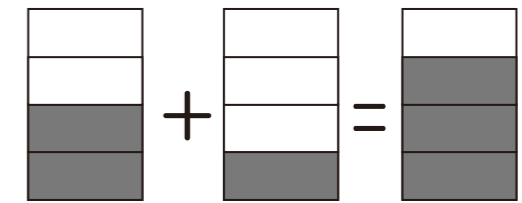
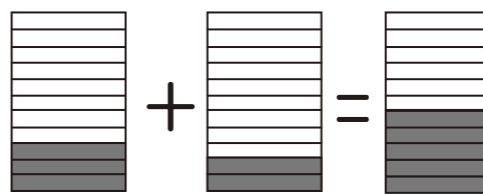
計算が得意という実態を考慮して、まず、計算の仕方を重点に取り扱って学習を進めました。「なぜこうなるか」については、「10分の〇」を例にして説明してから、個別指導の時間で一人ひとりに応じて取り扱わせました。

分数のたし算

① 《めあて》分数のたし算の計算のしかたを知ろう ②

$$\frac{3}{10} + \frac{2}{10} = \frac{5}{10}$$

$$\frac{2}{4} + \frac{1}{4} = \frac{3}{4}$$



《分数のたし算のきまり》下はそのまま、上だけたす

- ・分数の足し算の決まりを端的に書いて計算の理解につなげます。
- ・【下はそのまま、上だけ足す】という言葉を変数回唱えるなど、理解を確実にしていきます。

指導の成果



◆分母が同じ分数の加法と減法ができることを知り、計算方法が理解できました。

- ◆自閉症の特性から、一度決めたことや考えたことを変更していくことが難しい児童が多いため、基礎的基本的な内容の指導に重点をおきました。

★理解を確実にするため、時数を通常の学級より増やしました。

★発展的な課題については、個別指導の時間に一人一人の学習状況に応じて学習課題を用意し対応しました。

自閉症・情緒障害学級の「自立活動」の指導(1)

実施したアセスメント等と結果

【アセスメントの実施】

「交流及び共同学習の学習態勢チェックリスト」
「社会性・行動アセスメント」

【アセスメントの結果】

- ・学級のほとんどの児童は、集団の中で「話し合い・相談」(受容)・「話し合い・相談」(表出)に課題があることが分かった。
- ・感情の抑制についても共通の課題としてあげられた。

自立活動の指導の重点

○自分の考えを伝えたり、相手の意見を受け入れたりできるようにする。

指導内容及び配慮点

単元名「宝をさがそう！」

1 単元(題材)の目標

- ①協力・話し合いの活動を通して、他者からの働き掛けを受け止め、自分の気持ちを適切に伝えたりすることができる。

2 宝探しゲーム

ゲームの準備

- ①カードを隠すチームと探すチームの2チームに分かれて競う。
- ②チームに分かれて**作戦会議**をする。
 - ・カードを隠すチームは、50点のカード1枚をどこに隠すか相談する。
 - ・カードを探すチームは、探し方を相談する。



作戦会議の様子

ゲーム開始

- ③カードを探すチームが、カードを探す。
- ④探したカードの合計点が得点!
- ⑤攻守入れ替えて、もう一度。
- ⑥得点の高いチームの勝ち。

自閉症の特性に応じた支援の工夫

作戦会議では、次の支援を行った。

○相談手順の明確化 ○ワークシートの活用

作戦会議

(50点カードを隠す場所を決める)

- ①チームリーダーを決める。
リーダーは作戦会議を進める。
- ②一人ずつ、お勧めの場所を発表する。
※友達が発表したら、うなずく等の反応をする。(リアクション)
- ③みんなのお勧めの場所から相談して50点カードを隠す場所を決める。

ワークシート

- ①50点のカードを隠す場所
- ②50点カードを隠すお勧めの場所(みんなの意見)
 - ホワイトボードの後ろ
 - カレンダーのうら
 - ロッカーの右

指導の成果

- 話し合いのリーダーになれる児童が増えました。
- 自信をもって、意見を言える児童が増えました。
- 友達の見解を取り入れ、チームで意見をまとめることができるようになりました。
- 他の教科でも、話し合いの場面で自信をもって自分の意見を言うことのできる児童が増えました。

考察

- 話し合いの場面では、司会や記録等の役割分担をし、手順表やシナリオ等の視覚的な支援が有効であることが分かりました。
- 自立活動では、意図的に話し合いの活動を加えることが重要であることが分かりました。



自閉症・情緒障害学級の「自立活動」の指導(2)

児童の状況について

- ◆ 勝ち負けへの思いが強く、負けないようにルールを変えてしまったり、負けてしまうと怒ったりすることがある。また学習では、問題を一問でも間違えると不安定になってしまう。
- ◆ 苦手なことが多いという気持ちから、自己肯定感が低下してしまう。
- ◆ 他人の「できないこと」について厳しいところがある。

自立活動の指導の重点

- 自分と友達の得意なこと・苦手なことを知り、苦手なところも含めた自分の良さについて考えることができる。

指導内容及び配慮点(1)

活動名「デコレーションケーキの相談」

学習内容

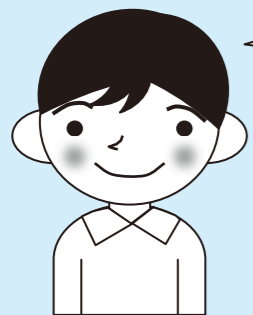
- ・一定の前提の上で、ケーキに載せたいものを考える。

- ・上記を友だちに伝える。

「みんなが食べられるもの」
「作るのがあまり難しくないもの」
という前提の上で考えます

「私はイチゴをのせたい」
「僕はケーキにチョコペンで飾りを書きたい」
「〇〇さん生クリームは好きだったっけ？」

- ・友だちからの同意を得る



おいしそうだね。楽しそうだね。

配慮点

- ・話し合い活動では、「私は、〇〇と思う」と自分の意見を言えるテーマが有効です。

指導内容及び配慮点(2)

活動名「自分や友達の得意・苦手」

学習内容

- ・視覚や臭覚等の感覚や、予定の変更、見通し、片付け、勝ち負け、初めてのことへの気持ちについて考える(自己理解・他者理解)

得意なことには○苦手なことには△を付けます。
×は付けません。苦手なことはいけないことではないですから。

活動	聞く	見る	におい	さわる	味わう	勝負	見通し	予定の変更	片付け	初めての
ど 苦 手 か	△	△	○	○	○	△	○	△	○	△

「大きな音を聞くのは苦手かな」

「負けるのはいやだなあ」

- ・上記を基に、友だちに対しての行動を考える

「みんなそれぞれ得意なことや苦手なことがあるんだね」
「〇〇くんはこの前〇〇をがんばったね、えらかったね」

最後にみんなが得意な「部首カルタ」をしましょう。今日は先生と対戦です(児童が勝ちました)。



指導の成果

- 相手の意見を打ち消さないで話し合いができました。
- 友達の良いところを認め合い、仲良くなることができました。

考察

- 話し合いに慣れ、相手の意見を尊重する態度を育てるためには、話し合いのテーマに配慮し、出し合った意見を皆が認めあえる内容が有効です。
- 一人一人の児童には、それぞれ得意とすることや苦手とすること、苦手なことがあることは、決していけないことではないことを学級で確認することが大切です。